



**KOURAKUEN
HOLDINGS**

株式会社 幸楽苑ホールディングス 2024年3月期 第2四半期 決算説明会

2023年11月17日(金)

目次

1. 代表取締役会長兼社長挨拶
2. 第2四半期決算ハイライト
3. 第2四半期連結決算概要
4. 通期連結業績予想
5. 参考資料

1. 代表取締役会長兼社長挨拶

代表取締役会長兼社長挨拶①

- 1. 弊社は、2021年3月期より2023年3月期の3期連続
営業利益赤字**
- 2. 2023年2月10日 株式会社幸楽苑 代表取締役会長就任
2023年6月23日 株式会社幸楽苑ホールディングス
代表取締役会長兼社長就任**
- 3. 今年2月時点では、原材料費値上げ年間3億円の見込み**
- 4. 5月から値上げ分を吸収するメニューへ変更
主力商品の中華そば・餃子・チャーハンは価格据置
お得感のあるセット商品の販売
値上げ感を感じさせないメニュー変更を実施**

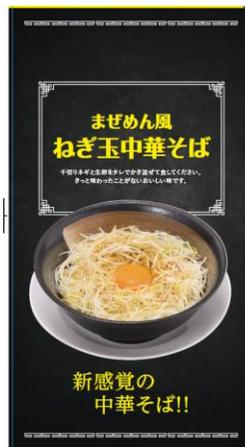
代表取締役会長兼社長挨拶②

- 5.** 第1四半期は、3期連続営業利益赤字の影響で、4億6千万円の営業赤字、4月～7月累計では5億5千万円の営業赤字となりました
- 6.** メニュー効果は7月からあらわれ、売上・客数が回復
- 7.** 8月から単月黒字経営に転換
8月83百万円、9月61百万円の営業黒字結果、第2四半期は51百万円の営業黒字
- 8.** 下期は4億6千万円の営業利益を見込んでおり、通期では50百万円の営業利益を見込んでいます
- 9.** 3期連続の営業赤字経営にピリオドを打ち営業黒字決算の実現を目指します

2. 第2四半期決算ハイライト

第2四半期決算ハイライト①

1. 2024年3月期第2四半期は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、消費者の行動はコロナ禍以前の状態に戻りつつありますが、原材料費、光熱費、人件費等の上昇により、厳しい経営環境が続きました
2. このような状況下で、『原点回帰』を掲げ、グランドメニュー改定、メニューの絞り込み、セット商品の拡充に取り組みました。同時にコスト削減にも注力し、収益力の向上に努めてまいりました



第2四半期決算ハイライト②

- 3.** しかし、3期連続営業赤字の影響もあり、当第2四半期連結累計期間は、売上高13,063百万円、営業利益△409百万円、経常利益△421百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益△253百万円という結果となりました
- 4.** 2024年3月期は、時短・休業店舗の正常化、メニュー改定とメニューMIXによる客単価の向上、不採算店舗の撤退を進めていく方針です
- 5.** これらの施策を進め、2024年3月期は通期営業利益黒字を達成できるよう取り組んでまいります

3. 第2四半期連結決算概要

第2四半期累計連結損益計算書

- 人流回復、新メニューの投入により売上高、売上総利益が増加
⇒売上高130億円（+3.1%）、売上総利益93億円（+0.8%）
- 販管費削減、固定資産売却により利益を創出し収益改善
⇒営業利益△4億円（2.8億円改善）

（単位：百万円、百万円未満切捨）

	2022年9月期		2023年9月期		前期比 前期差異
	金額	売上高比	金額	売上高比	
売上高	12,674	100.0%	13,063	100.0%	3.1%
売上原価	3,449	27.2%	3,767	28.8%	9.2%
売上総利益	9,225	72.8%	9,295	71.2%	0.8%
販売一般管理費	9,913	78.2%	9,705	74.3%	△2.1%
営業利益	△688	—	△409	—	280
経常利益	△423	—	△421	—	2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△1,071	—	△253	—	818

売上増加・コスト削減により収益改善傾向にあります

四半期別連結損益計算書

- 第1四半期は売上回復遅れ、原材料高、経費削減遅れにより赤字
⇒営業利益△4.6億円、経常利益△4.6億円、四半期純利益△4.9億円
- 第2四半期はメニュー改定等による売上増、経費削減効果で黒字
⇒営業利益0.5億円、経常利益0.4億円、四半期純利益2.4億円

(単位：百万円、百万円未満切捨)

	第1四半期			第2四半期		
	前期	今期	前期比	前期	今期	前期比
	金額	金額	金額	金額	金額	金額
売上高	6,216	6,189	△28	6,458	6,874	416
売上原価	1,686	1,782	97	1,763	1,985	221
売上総利益	4,530	4,406	△124	4,695	4,889	195
販売一般管理費	4,871	4,867	△4	5,042	4,838	△204
営業利益	△340	△460	△120	△348	51	399
経常利益	△61	△465	△404	△362	44	△406
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△13	△494	△481	△1,058	240	△1,299

各種施策により第2四半期は営業黒字に転換しました

連結貸借対照表

- 流動資産は、第三者割当増資、固定資産売却により現預金が増加
- 固定負債は、長期借入金の返済等により減少
- 純資産は、第三者割当増資により増加（自己資本比率3.8P改善）

（単位：百万円、百万円未満切捨）

資産の部				負債・純資産の部			
	2023年 3月末	2023年 9月末	増減額		2023年 3月末	2023年 9月末	増減額
流動資産	2,409	3,561	1,152	流動負債	6,580	6,811	231
固定資産	8,387	7,514	△873	固定負債	3,350	2,988	△362
有形固定資産	6,387	5,676	△711	負債合計	9,931	9,799	△132
無形固定資産	140	130	△10	純資産	865	1,276	411
投資その他の資産	1,859	1,707	△152	負債・純資産 合計	10,796	11,076	280
資産合計	10,796	11,076	280				

第三者割当増資により自己資本比率が11.5%と改善しました

コスト削減の状況

- 人件費は、賞与支給、時給上昇により増加しましたが、経費の全面見直しを行い、販促費を中心に削減した結果、前期差異△468百万円の改善となりました

(単位：百万円、百万円未満切捨)

	2022年9月期	2023年9月期	削減額
	金額	金額	金額
人件費	4,452	4,712	260
経費	5,460	4,992	△468
賃借料	1,531	1,521	△10
支払手数料	739	725	△14
減価償却費	562	474	△88
水道光熱費	978	956	△22
販売促進費	459	163	△296
運搬費	336	319	△17

今後も更なるコスト削減により収益性向上に努めます

資金繰りと財務状況について

第2四半期の財務施策

- 第三者割当増資を行い資金調達と自己資本拡充を実施
- 資産（土地）の売却を行い運転資金の確保を行いました
- 第2四半期に黒字を計上したこと、また、コミットメントライン契約総枠40億円を堅持していることから、十分な運転資金を確保しております

財務状況

- 財務基盤安定化のために行った第三者割当増資及び資産売却により手持ち資金増加、コミットメントライン枠堅持
 - 手持ち資金9月末残高23億円（3月末比10億円増加）
 - コミットメントライン総枠40億円のうち12億円が未使用

十分な運転資金を確保しております

継続企業の前提に関する重要事象

- 継続的な営業損失の計上により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる状況が存在します (単位：百万円、百万円未満切捨)

連結業績	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
営業利益	△1,729	△2,045	△1,687

- このような状況に対して以下の取り組みを行っています
 - (1) 第三者割当増資による自己資本拡充
 - (2) 売上増加施策の実施及び、更なる経費削減による利益創出
 - (3) 不採算店舗の撤退による赤字削減
- この結果、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております

4. 通期連結業績予想

今後の見通し

前提

- コロナ感染症の5類移行により催事が再開し人流に回復が見られます。この傾向は継続しコロナ禍前に近づくと想定します
- 一方で継続する物価高により、消費者の低価格志向は強まっており、厳しい経営環境が続くと見込まれます

見通し

- 下期の売上は平均月商22.4億円で推移する見込みです
※上期の平均月商は21.8億円
- 定期的な期間限定メニューの投入（商品入替）とセットメニュー強化によりお客様へ来店を訴求します
- 人的投資として賞与支給を行い社員の定着率を高め、店舗運営の正常化並びに顧客満足度向上に取り組みます
- 不採算店舗の撤退等により業績回復を見込んでおります

2024年3月期の数値目標と会社方針

- 2024年3月期は売上高265億円、営業利益50百万円、経常利益△1.5億円、当期純利益△1.5億円を見込んでいます

(単位：百万円、百万円未満切捨)

	上期		下期		通期	
	実績	前年同期差	見通し	前年同期差	見通し	前年同期差
売上高	13,063	389	13,437	649	26,500	1,038
営業利益	△409	279	459	1,458	50	1,737
経常利益	△421	2	271	1,377	△150	1,379
親会社株主に帰属する 当期純利益	△253	818	103	1,891	△150	2,709

営業利益黒字化を目標に取り組めます

配当について

- 2024年3月期の通期配当については、無配とさせていただきます
- 通期の見通しは営業黒字ではありますが、当期純利益は損失としております
- 早期に復配できるよう全社挙げて業績回復に取り組めます

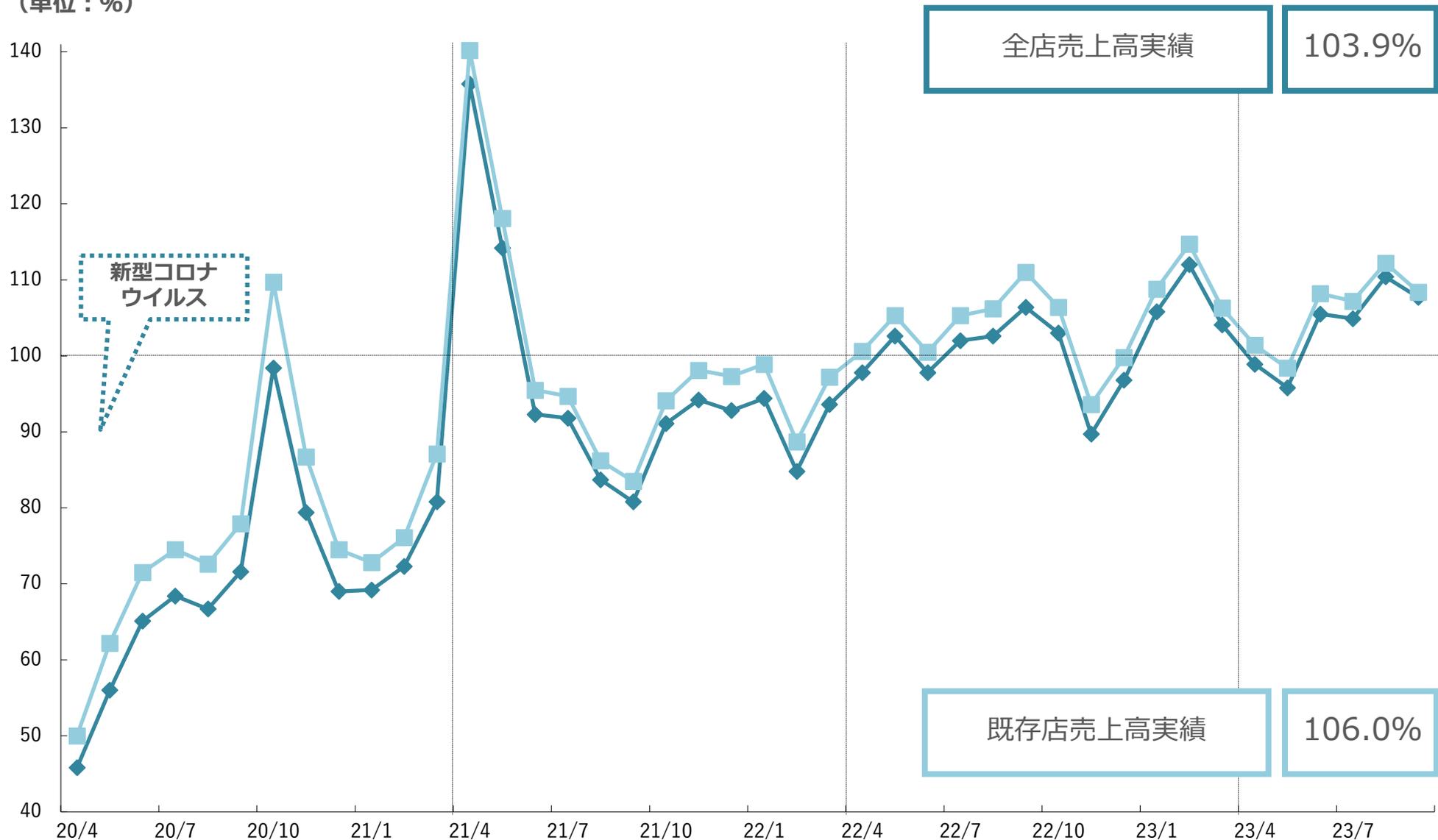
	中間	期末	年間
2022年3月期実績	0円	0円	0円
2023年3月期実績	0円	0円	0円
2024年3月期予想	0円	0円	0円

配当できるよう経営努力を継続します

5. 参考資料

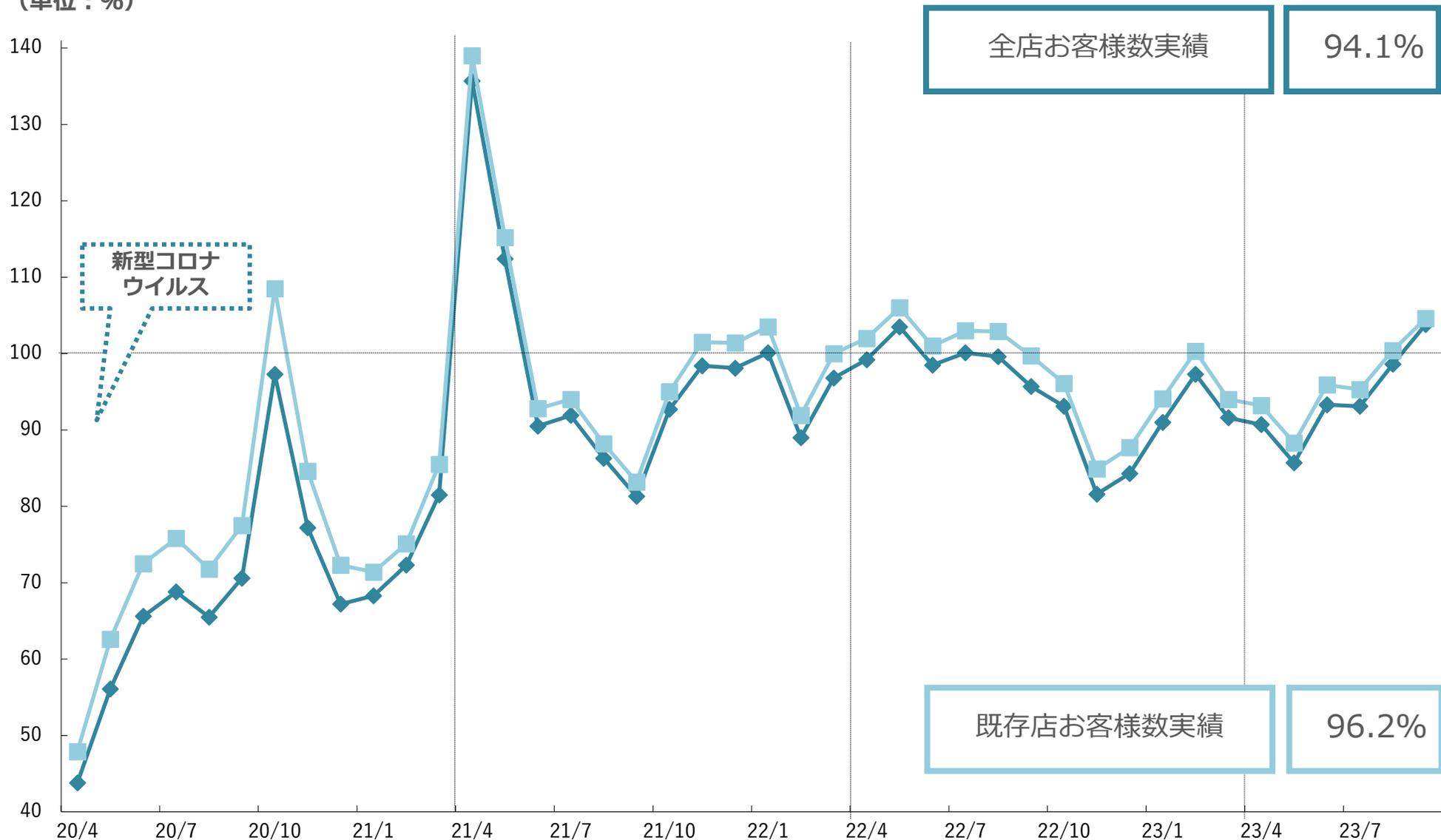
直営店月次売上高推移（前期比）

（単位：％）



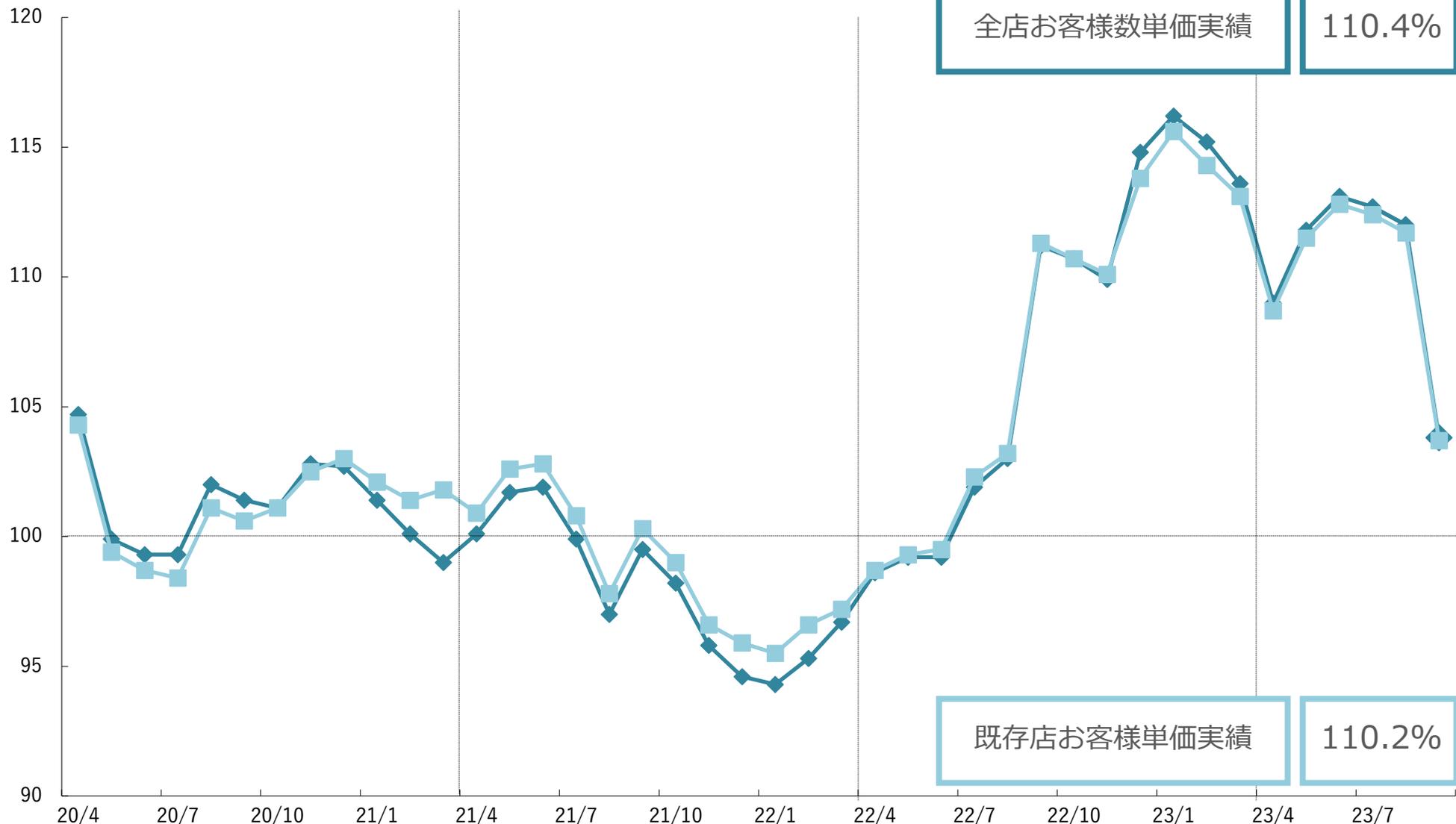
直営店月次お客様数推移（前期比）

（単位：％）



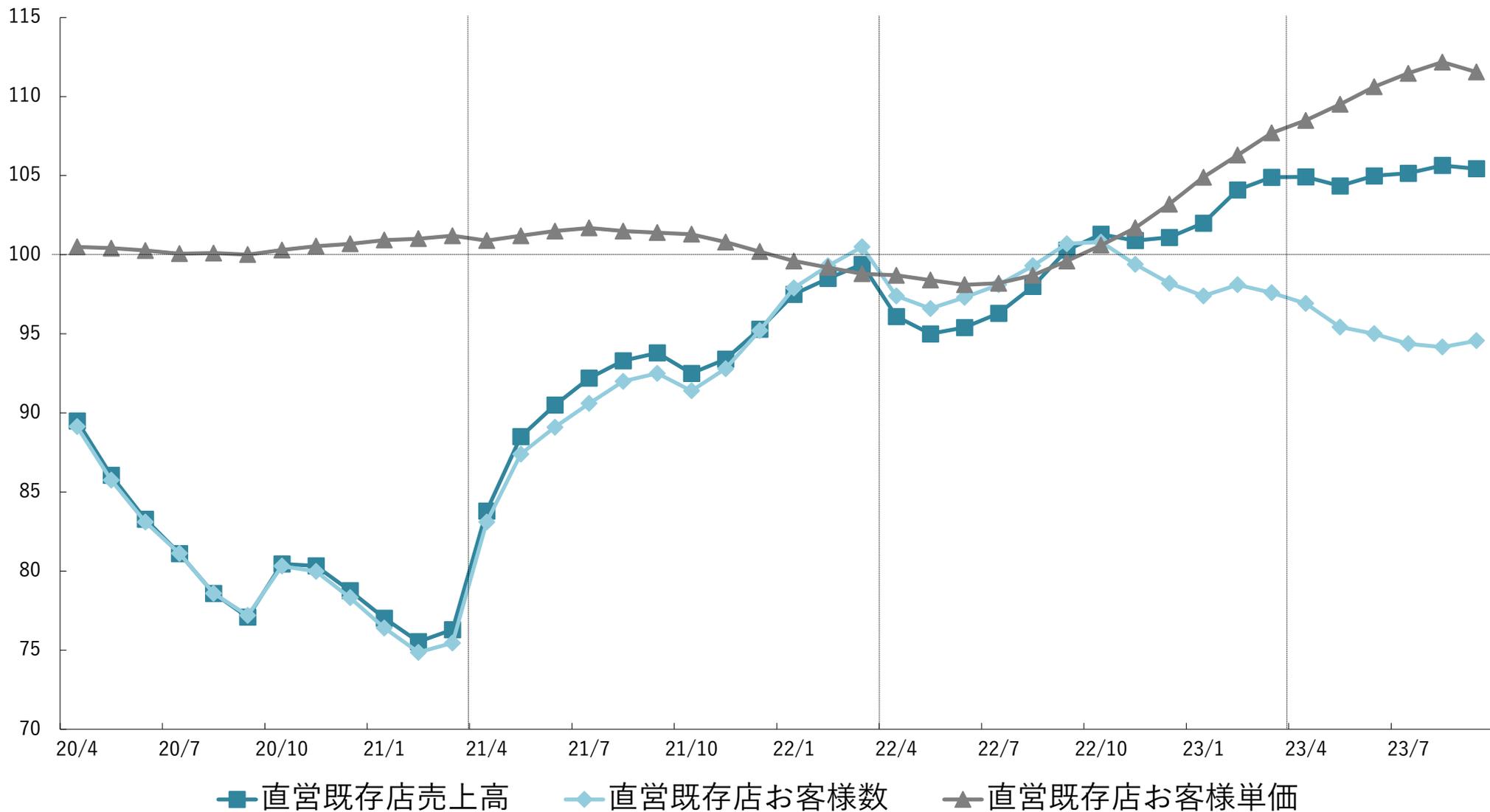
直営店月次お客様単価推移（前期比）

（単位：％）



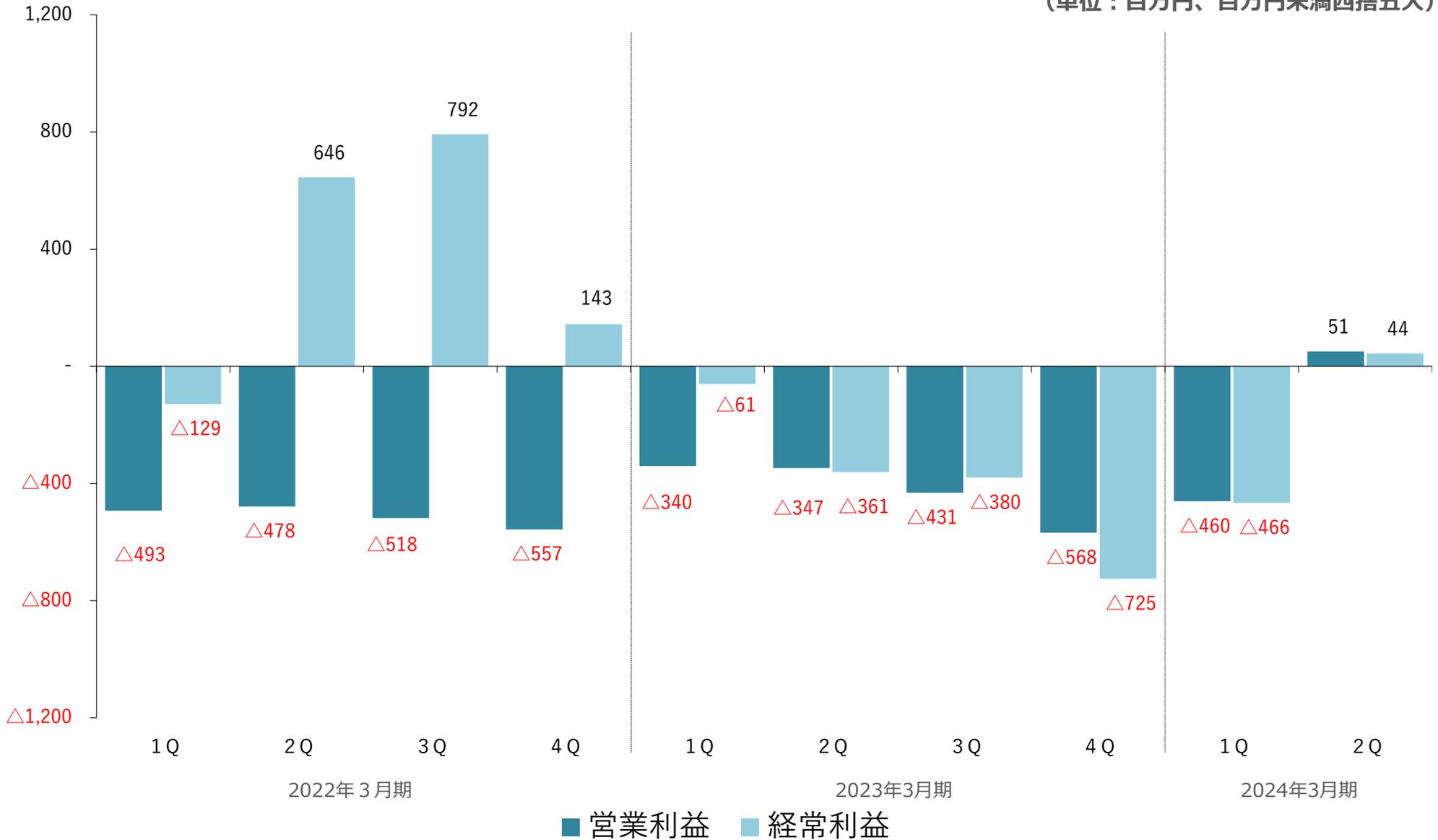
直営既存店月次推移（前期比・12ヶ月移動平均）

（単位：％）



四半期業績推移 (直近2期間)

(単位：百万円、百万円未満四捨五入)



営業店の推移

店舗のタイプ	2021年3月末	2022年3月末	2023年3月末	2023年9月末
幸楽苑（国内）	411	393	383	378
いきなりステーキ	4	-	-	-
焼肉ライク	10	12	12	11
焼肉食堂まんぷく	-	-	-	1
からやま	7	7	7	7
赤から	5	5	5	4
幸楽苑の家系らーめん トラック野郎 since2021	-	2	2	-
餃子の味よし	-	1	1	1
餃子食堂	-	2	-	-
VANSAN	-	1	1	1
幸楽苑（直営店）	437	423	414	403
幸楽苑FC（国内）	12	12	12	12
幸楽苑FC（海外）	5	5	5	7
幸楽苑FC 計	17	17	17	19
グループ合計	454	440	431	422

当社の直営店舗出店状況

《国内都道府県別店舗数》2023年9月末現在（2023年3月末比増減）

青森県	9店舗	-	新潟県	16店舗	-
岩手県	9店舗	-	山梨県	6店舗	△1
宮城県	44店舗	-	長野県	7店舗	-
秋田県	14店舗	-	静岡県	11店舗	△1
山形県	14店舗	-	愛知県	3店舗	-
福島県	46店舗	△1	大阪府	2店舗	-
茨城県	38店舗	△1	兵庫県	1店舗	-
栃木県	21店舗	△1			
群馬県	14店舗	-			
埼玉県	38店舗	△2			
千葉県	44店舗	△3			
東京都	29店舗	-			
神奈川県	37店舗	△1			

国内：20都府県 403店舗

